

令和5年度 藤枝順心中学校・高等学校 学校評価(前期) (評価規準 A:十分に実践されている B:ある程度実践されている C:不十分である D:分からない)

建学の精神 女性の自律・自主と先度他の心の涵養						
教育目標 白梅精神のもと、「清楚な生徒」、「芳香を発する生徒」、「忍耐のできる生徒」を育てる。						
本年度の重点目標 ①生きる力の育成 ②個々の適正に応じた進路指導 ③社会生活に適応する力の育成 ④積極的な情報発信 ⑤自己管理の育成 ⑥危機管理意識の高揚						
重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
①生きる力の育成	ICTを活用した教育環境の整備	(1) 具体的方策 Google Classroomを再導入し、連絡事項や課題の配信などを通して生徒がスマートフォンやタブレットを活用した教育活動に取り組める環境を整備する。 (2) 具体的指標 生徒がICT機器を使用する場面(スタディサプリ含む)を平均して週に3回は設けることができた : A 週に1回は設けることができた : B 週に1回も設けることができなかった : C	B	<ul style="list-style-type: none"> 週に3回以上生徒がICT機器を使用する場面を設けることができた先生は14.3%、週に1、2回できた先生は52.4%であった。7割近くの教員が週に1、2回はICT機器を使用する場面を設けることができたので、Bと判定した。 中学部では曜日を決めて各学年で均等に使用できる環境を作った。 google classroomを利用し、授業での問題演習や生徒への連絡を行っている先生もいる。今後は研修などを通して、google classroomの活用方法を全職員で共有していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用は、生徒にとってスムーズに入っていくやすい取り組みだと思うので、このまま継続してほしい。 目標を達成する手段として、ICT機器を十分に生かしてほしい。 環境作りに努力されていることはうれしいです。 生徒への連絡に使用されており、とても役立っている。 クラスによって使用できた、できなかったの差がないよう、先生方の研修はぜひ行ってほしい。 その場で満足しないで、後の検証も大事だと思います。 デジタル化している世の中なので、力を入れるのは当然だと思います。 日々進化していくICTに対応していくことは、なかなか難しいとは思いますが。 重点目標となっている生きる力は、生きている人間から学ぶものではないでしょうか。 評価する具体的な指標は、使用した回数ではなく、上手に活用できているかではないでしょうか。 スタディサプリは少しのあいた時間などに手軽に勉強ができて良いと思いました。学校帰りのバスや電車でスマホが使えれば、その通学時間も有効に使えるのではと思います。 ICTを有効活用することは、教育効果を高めるためにも必要なことだと思います。使用してどんな効果があったか知りたいです。しかし、ICTをどの教科に、どの場面で、いつ活用するすることが教育効果を高めることになるのかを職員が認識していることが大切だと思います。
	キャリア教育の充実	(1) 具体的方策 総合的な探究の時間で使用する探究プログラム(1年:Inspire High、2年:ぼらぶら)を有効に活用し、生徒が自分自身の強みや興味・関心などを把握し、進路選択を考える機会を作る。 (2) 具体的指標 探究プログラムの活用により、7割以上の生徒が進路選択を考えるきっかけとなった : A 5割以上 : B 5割未満 : C	A	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間を通して77.5%の生徒が自分自身の進路選択を考えるきっかけになったと回答した。 高1で探究の教材として使用しているインスパイアハイはとても良い教材である。人との出会いの少ない10代の生徒にとって話を聞いて、自分を考える良いきっかけとなっている。 高2の探究の時間では現在、SDGsの調べ学習の発表と小論文に取り組んでいる。取り組んでいる内容は良いのだが、ぼらぶらのシステムはあまり活用できていないように感じる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 早い段階から自分の進路選択について考える機会があるのはとても良いと思いました。 生徒達に見極めの力が徐々に身に付いて来ているのではないのでしょうか。うれしい限りです。 探究プログラムで進路選択のきっかけになったことは、自分で何となく思い描いていたことが、そのプログラムを学ぶことにより進路に対する考えが幅広くなり、柔軟性ができ、自信につながったかもしれせん。 高校2年では全員が同じSDGsについて探究学習をやっているのでしょうか。生徒の学習したいという思いは?SDGs以外にも興味関心はあるのではないかと思います。
②個々の適性に応じた進路指導	[進学] 進学実績 & 学力の向上	(1) 具体的方策 ア 今年度もチューター制で指導を行うが、中堅以上の大学や看護医療系においては、志望校が決まった生徒から随時、学年及び進路課職員で指導を実施する。 イ 看護医療系は指定校推薦から一般入試まで個々の能力に合わせた指導を行う。 ウ 模試対策は教科担当者が中心となり、例年よりも早い時期から指導をし、授業でも過去問題を扱う。 エ スタディサプリはシラバスを作成し、計画的な課題配信と確認を行う。 (2) 具体的指標 ア 中堅私大は河合塾全国偏差値47.5以上の大学とする。 イ 看護医療系志望者は全員合格させる。 ウ 進研模試で全国偏差値50以上を特進はクラスの50%以上、総進はクラスの10%以上を目標とする。 エ サプリ到達度テストの正解率を高1は70%以上、高2・3は60%以上を目標とする。 達成項目3つ以上 : A 達成項目2つ : B 達成項目0または1つ : C	B	<ul style="list-style-type: none"> アとイについては、これから受験が始まるため10月以降チューター制度や放課後の補習を徹底させながら個別指導を重点的に行っていく。進学指導課や学年の先生だけでなく、その他多くの先生方に協力をいただくことができた。今年度は国立大学や中堅私大を志望する生徒が多く良かったと思われる。合格者を増やせるように粘り強く指導していきたい。 ウについては、事前・事後指導ともに充分ではない。授業中においても過去問題を解かせる時間が必要である。また、普段の家庭学習状況が模試にも大きな影響が出ている。 エについては、先日テストを実施したため、現在結果待ちである。スタディサプリは先生方の配信数が増えており、利用状況は昨年度よりも良くなっている。後は、学力が身についているかどうかというところに着目していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 先生方のきめ細やかな指導が何われ、全員希望校への合格を期待します。 チューター制を大いに評価します。 チューター制他、細やかな指導で生徒のモチベーションが受験まで保てるようより沿ってほしい。 早い時期から模試で自分の実力を確認することは必要だと思います。 進学希望の生徒は、共通テストに必要な科目を授業で学習していると思いますが、情報・クック・美デの生徒にも進学を希望している生徒には、特進クラスの生徒と同じくらい早めに勉強させてあげられたら良いと思います。 予習・復習、共に有りきの徹底した学習であってほしい。

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
②個々の適性に応じた進路指導	〔就職〕 入社後のミスマッチをなくす	(1) 具体的方策 ・自分に合った、自分のやりたい仕事は何かをよく考え、企業研究を十分に行う指導を実践することで入社後のミスマッチをなくす。 ・企業に来校していただき、生徒が希望する企業から説明を受ける機会を設ける。(20社予定) ・同友会主催のオンラインによる企業説明会に積極的に参加させる。 ・企業訪問や卒業生、行政機関、企業採用担当者等の講話を通して、企業への理解を深め、社会人になることへの意識高揚を図る。	今後の調査結果で判定	・企業説明会の実施（5月、3年と一部の2年参加、20社参加）意欲的に参加する生徒が多かった。 ・「企業が望む人材等」の講話（7月、2・3年参加）求人票の見方等タイムリーな内容であった。 ・オンライン企業説明会（6月、延べ1010人参加）オンライン84人、対面（訪問）17人参加 企業内容を知り、有効であった。 ・企業訪問の実施（7月末～8月上旬、就職希望者1人3社以上訪問）ほとんどの生徒は、この企業訪問で受験先企業を決めた。 ・1・2年夏期休業中のインターンシップ参加状況 1年3人、2年11人参加、企業数12社 インターンシップについて知らない保護者が多かった。特に三者面談で初めて知り、参加した生徒もいた。「さくら連絡網」で周知してもよかった。	調査待ち多数	・例年のように100%の結果が出ることを期待します。 ・早期における学校側の対応が良い結果に繋がっていると思います。 ・説明会やインターンシップ、企業訪問はとても有効だと思います。不安に思うことも解決につながる良いきっかけになるので、できる限り取り組んでいただきたいと思います。 ・インターンシップ制度は迷っている生徒にはとても効果があると思います。これについては、保護者にもぜひ周知してほしいです。 ・夏季休業時の就職指導（面接・筆記）を細かく、丁寧に、相談にも耳を傾けていただき、本当にありがたかったです。 ・就職者のアンケートは希望している生徒にとっても参考になるといいますし、ミスマッチを防ぐのに大変役立つと思います。 ・入社後、ギャップを感じたり、人間関係でつまづいたりすることもあると思いますが、たくましくなっしてほしいです。 ・過去3～5年の離職率がどうなるか興味深いです。ミスマッチがなければ数値に反映されると思いますし、それが実績となり、企業側にも、未来の生徒にもアピールできるのではないのでしょうか。 ・職場体験学習を高校1・2年で実施したらどうでしょう。幼稚園で2日間体験するだけで、各クラス2～3人は保育士になりたいという希望を持つ生徒がいます。実際に働いてみて、初めてわかることがあります。 ・礼儀作法は大切な授業です。そして挨拶ができるか、できないかを人は見えています。社会はそういう基本的なことを実践している人材を求めているのだと思います。
		(2) 具体的指標 ・入社後1～3年目の卒業生を対象にアンケートを実施して、現況について報告してもらった調査を行う。 ・調査結果より 全員がミスマッチなし・・・・・・A 1%がミスマッチあり・・・・・・B 1%以上がミスマッチあり・・・・・・C		・筆記のSPI対策として、2年生の後半から授業や「土曜日課」の中での実施を検討したい。 ・報告は、経費、報告のしやすさを考慮して、スマホ等での返信を考えている。 ・過去3年間の就職者へのアンケートを実施して、現在の就業状況を報告してもらい、ミスマッチ等の状況を把握する。10月以降に実施予定。		
③社会生活に適應する力の育成	「清楚・芳香・忍耐」の理解と実践	(1) 具体的方策 白梅精神に基づく教育目標「清楚・芳香・忍耐」の意味を理解させ、生徒一人ひとりが意欲的に取り組むことができるよう、初期指導やHRで目標を設定させる。	B	・「Fujieda junshinチェック」の結果を見ると、約8割の生徒はできていると自己評価している。しかし、認識には個人差があり、「清楚・芳香・忍耐」への理解に偏りがある。できていない項目として挙げられるのは、 1 遅刻や忘れ物をせず課題提出期限を守ること。 2 講堂への移動時の無言、着席後の黙想。 3 予定確認、準備。 4 おもにスマホの使用が2時間以内。 清掃についても自己評価が甘い。 どの項目についてもすぐに改善できるものではないため、「清楚・芳香・忍耐」の理解を深める指導をすること。また、長期継続して指導することや、教員側のここは譲れないという強い意志が必要である。	B	・生徒が当たり前のこととして意識できるよう、日々の指導をお願いしたい。生徒の手本となるように、先生方も常に意識する必要があると思います。 ・先生と生徒の根気比べかもしれないが、時間をかけても教育目標の譲れない部分は、全先生がしっかりと共通認識を持って指導できれば、生徒にも伝わるといいます。 ・社会人になる前のとても大切な準備期間だと思いますので、日々大変ですが少しでも自分に厳しくなれるよう、清楚・芳香・忍耐をよく理解して頑張ってもらいたいと思います。 ・学校では毎日清掃をしていますが、家庭では全くしてもらえない。家庭での指導はとても難しいです。 ・清掃の様子は生徒により差がとても大きいと感じています。差はどこからくるのでしょうか。 ・イギリスでは、携帯電話が体に悪影響を及ぼすとして、学校に持ち込むことを禁止したと報道されました。考える時期が来たのかもしれない。 ・自己判断は家庭環境(躰)の違いがあることから、職員の一貫した指導方法で育てていけたら良いと思います。 ・高校2年生が保育実習に来てくれますが、意欲的に活動してくれ、感謝しています。 ・運動会のボランティアに来てくれました。どちらかという物静かな生徒が多かったです。活動はしっかりやってくれ、とても助かりました。
		(2) 具体的指標 学期終了時に生徒指導課の反省表を記入し、振り返りを行う。「よくできた」「おおよそできた」と自己評価する生徒が7割以上： A さらに次の目標を設定することができ、意欲的に取り組んでいる 5割以上7割未満：B 5割未満：C				
	礼法・学校規則の理解と遵守	(1) 具体的方策 講話をはじめとする礼法・学校の規則・社会ルールについて初期指導やHRを通して理解させ、遵守させる。 (2) 具体的指標 講話の聴き方や態度、移動時の行動が7割の生徒にしっかりと身についており、校内巡視を通しての教室の整理整頓が8割以上徹底されている： A 6割以上8割未満徹底されている：B 6割未満：C	B	・講話の聴き方については概ねできているものの、講話中の居眠りや移動時の無言、着席後の黙想についてはできていない。何度注意しても直せない状況である。これは教室の整理整頓にも言えることであり、自己認識の低さや甘さ、偏りが原因である。生徒が自分のこととして捉え、クラス全体の意識を高めることが重要である。教員の繰り返し指導する根気強さも重要である。	B	・学校で礼法の授業があつて良かったです。テスト前など子供が勉強しているのを見ると、こんなことも教えてくれるんだなと有難く思います。 ・順心高校の良さは、礼儀作法がきちっとしているところだと思います。先生方の御指導で、来校した時に挨拶をしてくれるのも、とても気持ち良いです。 ・教育目標にもつながりますが、自分の甘さ、自己認識の低さを十分に理解し、先生方に注意される前に自ら気付いて直すよう努力して行って欲しいです。 ・規則の指導は指導する側も大変だが、コツコツ繰り返し日々の指導が必要だと思います。 ・「躰」については、順心の伝統であることを再認識し指導して欲しい。
違反行為や問題行動の防止と指導	(1) 具体的方策 違反行為や問題行動は1報で情報共有し、生徒指導課会議において指導方針について協議し、校長の指示を仰ぎ実施する。 (2) 具体的指標 生徒全員が安心・安全な校内生活を送れることを目指す。 違反行為や問題行動を未然に防ぐように校則の確認をHRや長期休業前に必ず行い、規範意識の向上を目指す。謹慎以上は10件以内、戒告は20件以内： A 謹慎以上15件以内、戒告30件以内：B 謹慎以上16件以上、戒告31件以上：C	A		・退学勧告1名、謹慎3名、戒告15名。数字としてはAとなる。しかし、内容を見てみると、繰り返し指導したにもかかわらず、違反してしまったり、自己都合で簡単に校則を破ったりするという様子が見られる。各学年で初期指導でも時間をかけて指導しているが、生徒に一つ一つ確認させたり振り返りを行うことを、丁寧に指導する必要があると感じている。		A

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
④積極的な情報発信	新規連絡網の活用	(1) 具体的方策 「さくら連絡網」を活用できるように、職員研修会を実施し、積極的な情報発信が可能な体制を整える。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・さくら連絡網に移行し、生徒の登録は完了した。だが、生徒本人の端末しか登録せず、保護者の登録ができていない者が10名いる。保護者が日本語を話せないためではないかと推測されるが、今後欠席連絡での活用のためにも、是非全保護者の登録協力をお願いしていく。 ・9/25(月)の職員会議で利用方法の職員研修会を実施し、後期開始の10/11(水)から欠席連絡での運用を始めていく。 ・満足度調査のアンケートは年度末に実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・便利な機能はどんどん活用してほしい。子供が通っていた小・中学校では、すでにさくら連絡網を積極的に活用しており、紙媒体を無くす努力をしています。欠席連絡はもちろん、イベント案内、クラス通信、アンケートなども発信しています。そのため、遠方から通わせている保護者にも周知でき、大変有効だと思います。 ・保護者が学校に関心を持っていただくのに足を運んでいただくのは限り有ることだと思います。保護者を巻き込むには、webで面談したり、進路について話したりするのは不可能ですか？ ・徹底した情報発信ができることを望みます。
		(2) 具体的指標 年度末に利用満足度アンケートを実施し、満足度80%を目標にする。 80%以上 : A 70%以上 : B 70%未満 : C				
⑤自己管理の育成	実態に即した保健教育の実施	(1) 具体的方策 健康診断の実施、事後措置等を通して、生徒及び教職員の健康の保持増進を図り、感染症の状況等、実態に即した健康教育を実施する	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりや管理チェック等を通じ、健康・感染対策は意識づけできていたようだ。 ・欠席者数が全体的に減少(1割以下)。しかし、特定の生徒で欠席が多くなっているため、その生徒への声掛けなど、引き続き対応していく。 ・マスクを外したことにより、生徒の表情がよく見え、ちょっとした変化などにも対応ができるようになった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自己管理にも合わせ健康チェックを速やかに実施していることで成果に結びついていると思います。 ・欠席者が全体的に少なくなってきたことはとても良いことです。保護者の協力、生徒の認識、先生方の指導の効果の表われでしょう。 ・コロナやインフルエンザの感染が少人数で済んでいることを考えると、感染対策ができていたと思います。まだまだ増加傾向にあるため、管理チェックを続けていくことはとても必要だと思います。また、コロナやインフルエンザ欠席数などの発信があることで、予防、感染対策になるので、情報が欲しいです。 ・マスクなしの高校生活を送ることができるようになり、学校(生徒)が明るい雰囲気になった気がします。また、親も子供の友達の顔をやっと覚えることができるようになりました。 ・欠席理由については、さまざまあるかと思いますが、先生方には引き続き声掛けをしていただくと助かります。
		(2) 具体的指標 健康診断結果を通して健康状態を把握させ、保健だよりを通して時期に合わせた情報を提供し、感染症が流行する前には、注意喚起を行う。 欠席率が全体で4割未満 : A 4割以上5割未満 : B 5割以上 : C				
	健康相談の充実と情報共有	(1) 具体的方策 健康相談の充実を図り、生徒の支援を行う。 担任等と情報共有、必要に応じスクールカウンセラーとの連絡を密に行い、生徒の学校生活がよりよいものとなるようにする。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・「Fuji eda jun shinチェック」の結果を見ると、教員(スクールカウンセラー含)に相談できると回答した生徒が、1割以下だった。教員・保健室やスクールカウンセラーに相談している生徒の姿から、相談体制は取れているように感じるが、生徒と教員での認識の違いがあるのかもしれない。振り返りアンケート等にも健康面(相談含)項目を追加し、様々な面からアプローチ等が必要だと感じた。 ・アンケートの聞き方に不明瞭な点があり、生徒に共通認識させることができなかった。次回のアンケートではその点を明確にしたい。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・何かがあったら対応するのではなく、能動的な方向に考え方をかえたらいかかでしょうか。生徒の変化を見逃さない見守り。担任とカウンセラーの連携。 ・担任など話しやすい先生になら気軽に相談できても、スクールカウンセラーとなると、なんとなく相談しにくい感じがある。悩んでいる内容にもよるとは思いますが。 ・充実した学校生活を送るため、困りごとがあったらいつでも相談できると多くの生徒が思えるような環境を整えてほしい。 ・スクールカウンセラーさんから、今の問題点(子供の悩みなど)、親が気をつけたいことなどがあれば、教えてほしいです。 ・認識の違いがあるかもしれないとのことなので、アンケート項目の追加や生徒への聞き取りなど、よりアプローチを多くお願いできればと思います。
		(2) 具体的指標 学期終了時に生徒指導課の反省表 教育相談項目にて、教員(スクールカウンセラー含)に相談できる生徒が6割以上 : A 4割以上6割未満 : B 4割未満 : C				
⑥危機管理意識の高揚	体験型防災訓練の実施	(1) 具体的方策 各種の体験型防災訓練を実施し、生徒及び職員の危機管理意識を高める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・前期は地震を想定した避難訓練を実施した。講堂及び体育館でのプログラムだけを伝え、グラウンドへの避難は半抜き打ちで行ったため、迅速な避難というわけにはいかなかったが、調理室前のグラウンドへの出口が混雑して動けなくなったことなど、不具合がわかったことは収穫であった。 ・後期は火災を想定した避難訓練を実施予定なので、危機管理意識が高まるように細部を確認しておきたい。火災避難実施後に危機意識アンケートを実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地震・火災の訓練は高い意識で行われていて素晴らしいと思います。 ・繰り返しの訓練を切に望みます。 ・訓練はどこにおいても必要不可欠であると思います。出口が混雑して動けなくなったことなどで不具合をきっかけに危機意識を高めていけると思います。 ・実際に訓練を行うといろいろな場面にあたり、災害も年々危険度が高まっている。抜き打ち訓練を行うことは、緊張感、切迫感があり、良いと思います。
(2) 具体的指標 防災アンケートで危機管理意識が高まったと感じる生徒・職員が90%となることを目標とする。 90%以上 : A 75%以上 : B 75%未満 : C						